

あいち農産物生産流通レポート

2025年12月号

ページ

◎ マンスリーレポート

- ・ 本県におけるキャベツの生産販売状況について (園芸農産課) 1

◎ 地域トピックス

- ・ 海部地域花き普及活動
～ フラワーアシスト フラワーウォーク ～ (海部農林水産事務所) 2

◎ 東京レポート

- ・ 令和7年度(第64回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました (東京事務所) 3

- ◎ 東京都中央卸売市場における12月の主要な愛知産青果物の動向 (東京事務所) 4

◎ 花 き

- ・ 切花・鉢花の12月の見通し(県内市場) (食育消費流通課) 8

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

本県におけるキャベツの生産販売状況について

園芸農産課

愛知県のキャベツは、作付面積及び、出荷量ともに全国トップクラスで一大生産地となっており、特に田原市や豊橋市など東三河の温暖な地域で栽培が盛んとなっています。今回は本県におけるキャベツの生産状況を報告します。



キャベツの栽培風景

1 本県のキャベツの作付面積等について

本県の2024年産キャベツの作付面積は5,560haで日本一です。また、出荷量では、11月から3月にかけて出荷される「冬キャベツ」は、全国シェアの3割以上を占め、2023年の産出額は189億円で、本県野菜の産出額の中でも第1位の品目です。

表 キャベツの主要生産県の状況

県名	作付面積 (ha)		出荷量 (t)		産出額 (億円)
		うち 冬キャベツ		うち 冬キャベツ	
愛知	① 5,560 (17.0%)	① 4,200 (29.0%)	② 209,000 (17.8%)	① 143,000 (32.2%)	② 189 (18.9%)
群馬	② 4,090	283	① 246,650	9,250	① 194
千葉	③ 2,647	② 1,350	③ 95,250	② 49,200	③ 79
全国	32,760	14,500	1,176,300	443,800	1,002

注：作付面積及び出荷量は2024年産(第1報)。産出額は2023年産。(出典：農林水産省)

○内の数字は全国順位。愛知県の欄の()内は全国シェア。

2 2024年及び2025年のキャベツの生産販売状況について

2024年産のキャベツは、単価が高騰し、全国的に話題となりました。

2024年産の栽培概要として、育苗期の高温による生育不良や、相次ぐ台風の影響で計画どおりに定植が進まなかったこと、秋から冬にかけての雨不足と低温という悪条件が重なったことでキャベツの肥大が十分に進みませんでした。そのため出荷量が減少し、単価が高騰したと考えています。

2025年産は前年の状況を踏まえて、産地では育苗期に遮熱資材を利用するなどの栽培環境の見直しに取り組んでいます。また、自動操舵トラクターなどスマート農業機械を積極的に導入するなど、高品質なキャベツの安定生産に向けた取組が進められました。

これらの取組により、2025年産は計画どおりに定植作業が進みました。また、適度な降雨もあったことから、10月以降のキャベツの肥大も順調であり、安定出荷が見込まれています。



図 近年のキャベツ出荷量と単価の推移

(J A あいち経済連取扱実績から作図)

海部地域花き普及活動 ～ フラワーアシスト フラワーウォーク ～

海部農林水産事務所

海部農林水産事務所では、海部苗木花卉生産組合連合会（以下、「海部花き連」という。）と連携して、花きの普及活動に取り組んでいます。

その中で今回は、「フラワーアシスト」「フラワーウォーク」の取組について紹介します。

1. フラワーアシスト

「フラワーアシスト」は、管内産地の花きを定期的に直接購入することによって、花き生産者を支援する活動です。

この活動は、2020 年度と 2021 年度に新型コロナウイルスによる需要低迷の影響を受けた生産者を支援するため、海部農業土木研究会の協力により合計 1,000 鉢（セット）の花きを購入いただいたことから始まりました。コロナ禍以降も花きの消費拡大と海部管内の産地支援を目的に継続して実施しており、今後も取り組んでいく予定です。



令和 7 年度スケジュール

実施月	品名等	規格等
5 月	エラチオールペゴニア	4 号鉢
1 2 月	ポインセチア	4 号鉢
1 月	ミニガーベラ	3.5号2鉢
2 月	エラチオールペゴニア	4 号鉢

2. フラワーウォーク

「フラワーウォーク」は、花の消費拡大と、生活に花を取り入れる文化を推進することを目的として、「花を持って街を歩こう！」をテーマに、愛知県の花き生産者が中心となって始められた運動です。

海部花き連と海部農林水産事務所が連携し、管内市町村、農村輝きネット、海部総合庁舎内県機関を対象に 2010 年度から実施しています。購入した花を持って街を歩くことで、花への関心を高め、花のある暮らしの推進と消費拡大を図ります。代金のうち 10%が花育推進協力金として花育教室の開催等に活かされています。



令和 7 年度スケジュール

実施月	品名等	規格等
7 月	スプレーマム	4号2鉢
9 月	ペゴニア ラブミー	5 号
12月	ポインセチア	5 号
2 月	ミニガーベラ	7 号
3 月	エラチオールペゴニア	4 号

令和7年度(第64回)農林水産祭「実りのフェスティバル」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年10月31日(金)と11月1日(土)に、サンシャインシティ(豊島区東池袋)で令和7年度(第64回)農林水産祭「実りのフェスティバル」(主催:農林水産省、公益財団法人日本農林漁業振興会)が開催されました。本フェスティバルにおいて、本県は県産農産物のPR・販売や、新品種を紹介する展示を行いました。

1 「実りのフェスティバル」について

農林水産業と食に対する理解増進、農林水産物の消費拡大等を目的として1962年から毎年開催されています。会場内では、都道府県や農林水産関係団体等の展示ブースで農林水産物や加工品の展示・販売・試飲試食、天皇杯等の受賞者のパネル展示、都道府県技術・経営普及展の展示等が行われ、来場者は2日間で約25,000人となりました(主催者発表)。

2 県産農産物のPR・販売

県産農産物の認知度拡大のため、愛知県農産物需要拡大推進協議会(構成:愛知県、JAあいち経済連)として、首都圏に出荷しているキャベツ、ブロッコリー、ミニトマト、ふき、次郎柿、ぎんなん、大葉、シクラメンを販売しました。【写真1】

3 天皇杯等の受賞者のパネル展示

会場では、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の受賞者のパネル展示が行われました。本県からは、内閣総理大臣賞の多角化経営部門で知多郡阿久比町の有限会社千姓(せんしょう)(出品財:経営(水稻、露地野菜、施設野菜))が受賞し、展示されました。【写真2】

4 都道府県技術・経営普及展における本県の展示

本県農業総合試験験場とJAあいち経済連が共同開発した大粒で食味の良いイチゴ新品種「愛経4号」(ブランド名「愛きらり®」)のほか、本県農業総合試験験場が開発した新品種として、単為結果性・とげなし性・多収性・漬物加工特性を併せ持つナス「試交17-22」、果皮が黄緑色で甘味が強く果皮ごと食べられるイチジク「愛知イチジク1号」、在来種よりも収穫期が約1か月早いエゴマ「No.7」について紹介しました。【写真3】



【写真1】



【写真2】



【写真3】

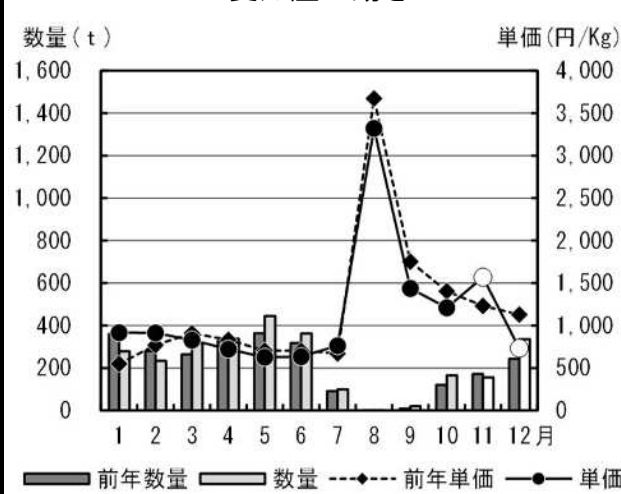
農産物を購入した来場者からは、「カラフルなミニトマトは初めて見た」、「祖父江ぎんなんは美味しいので買いに来た」等の声が聞かれ、首都圏において一定の認知度があることも確認できました。今後も、本県産農産物の首都圏での消費と認知度の拡大を目指し、様々なプロモーション活動を展開していきます。

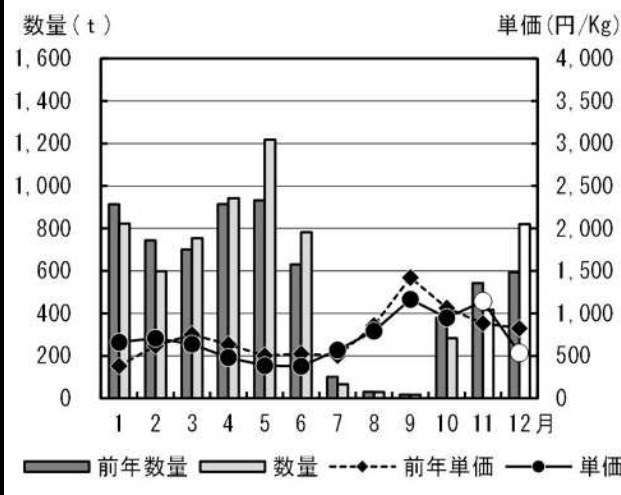
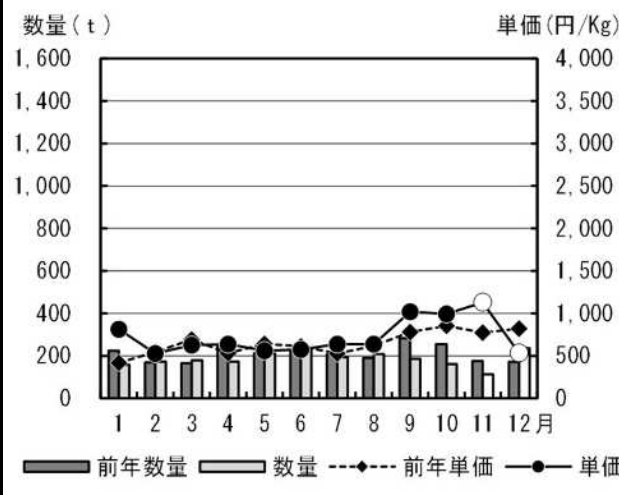
東京都中央卸売市場における 1 2 月の主要な愛知産青果物の動向

1 1 2 月の見通し

品目名 ミニトマト

区分 実績等		入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実 績	2020年	1,949	453	熊本	43%	愛知産は市場評価が高いので、 翌週に加えて2～3週間先の出荷 情報の提供、レギュラー品だけに 偏らないオリジナリティのある商 品（高糖度、カラー、プラム型な ど）の出荷維持、良食味や着色の 良い外観など高い品質の維持に努 めてほしい。
	2021年	1,862	627	愛知	18%	
	2022年	2,148	554	千葉	12%	
	2023年	2,019	569			
	2024年	1,378	927			
5ヵ年平均		1,871	626			
2025年見通し		1,900	600			

愛知産の動き	産地概況
<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>■ 前年数量 □ 数量 ---◆--- 前年単価 ● 単価</p>	<p>本県は、高温の影響を受けたものの、生育は順調に推移しており、平年並の安定した入荷が見込まれる。</p> <p>競合産地について、熊本は、栽培面積の減少と8月の豪雨の影響により、例年より少なかった前年並の入荷が見込まれる。</p> <p>千葉は、生育に大きな問題はなく、平年並の安定した入荷が見込まれる。</p>

競合産地の動き（熊本）	競合産地の動き（千葉）
<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>■ 前年数量 □ 数量 ---◆--- 前年単価 ● 単価</p>	<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>  <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>■ 前年数量 □ 数量 ---◆--- 前年単価 ● 単価</p>

品目名 ブロッコリー

区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2020年	3,658	267	香川	20%	再生産価格を維持するため、経済連・J A・市場が一体となり、直送販売・契約販売や1～2週間先を見据え、事前相対販売への取組みを長期・計画的に行い、日々の販売に左右されない安定販売を目指す必要がある。 また、今後も安定的な出荷に努めていただきたい。
	2021年	3,346	328	愛知	16%	
	2022年	3,723	298	熊本	16%	
	2023年	3,911	334			
	2024年	2,656	621			
	5ヵ年平均	3,459	370			
2025年見通し		3,300	380			

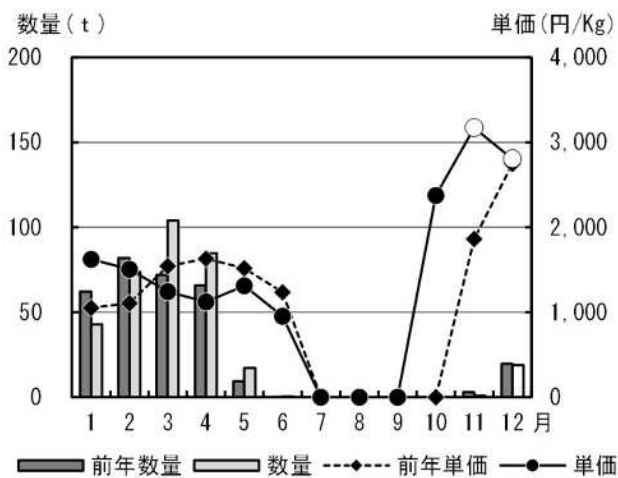
愛知産の動き	産地概況
<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>前年数量 数量 --- 前年単価 — 単価</p>	<p>本県は、高温対策で定植を遅らせたため、生育ペースは昨年より遅くなっている。生育は順調に推移しており、影響は軽微で、平年並の入荷が見込まれる。</p> <p>競合産地について、香川は、黒すす病や花蕾腐敗病が一部は場で発生しているものの、適期防除による品質確保に努めており、大きな問題はなく、平年並の入荷が見込まれる。</p> <p>熊本は、11月中旬が年内の入荷ピークとなるため、12月中旬以降は入荷が少なくなると見込まれる。</p>

競合産地の動き（香川）	競合産地の動き（熊本）
<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>前年数量 数量 --- 前年単価 — 単価</p>	<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p> <p>1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月</p> <p>前年数量 数量 --- 前年単価 — 単価</p>

品目名 さやえんどう

区分 実績等		入荷量	卸売価格	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2020年	245	1,053	鹿児島	51%	きぬさやえんどうは、愛知産の「紅姫」は品質面の信頼が高くブランドとなっているので、作付面積の維持・拡大をお願いしたい。 スナップえんどうは、前年から新規格としてガク無しを導入し、A品と同等の相場が形成され、販売が安定した。今年も新規格を推進していきたい。
	2021年	184	1,377	愛知	14%	
	2022年	182	1,509	熊本	10%	
	2023年	200	1,274			
	2024年	140	2,055			
5ヵ年平均		190	1,454			
2025年見通し		135	2,100			

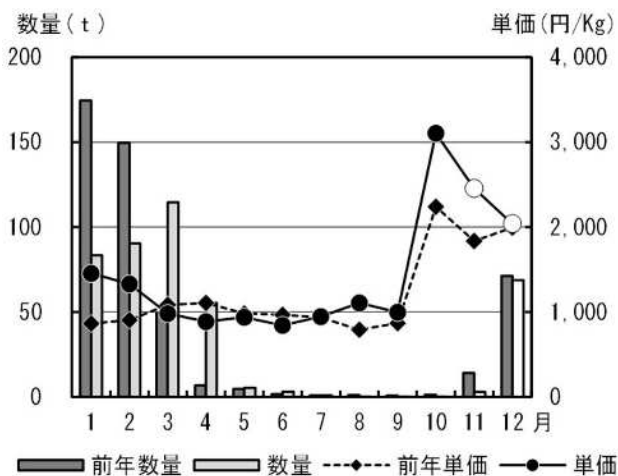
愛知産の動き



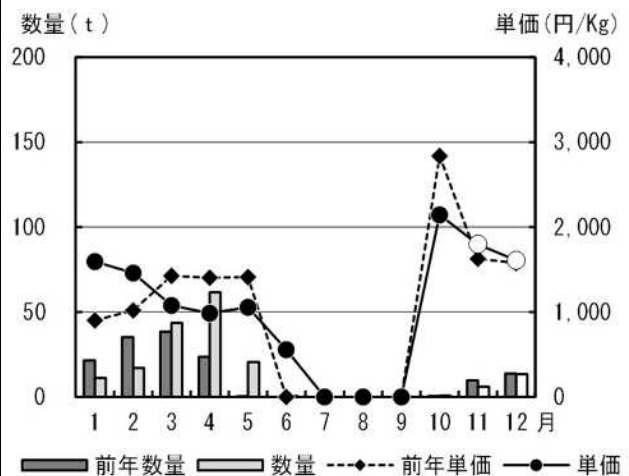
産地概況

本県は、高温の影響で播種が遅れたため、生育ペースは昨年より遅くなっており、年内の入荷は少ないと見込まれる。生育は順調に推移しており、年明けに多くなる見込み。
 競合産地について、鹿児島は、定植期の高温により生育障害がみられる。生育は徐々に回復すると見込まれ、微減～前年並の入荷となる見込み。
 熊本は、気温が高いため生育が遅く、入荷は中旬頃から安定してくるが、総量は前年より少なくなると見込まれる。

競合産地の動き（鹿児島）



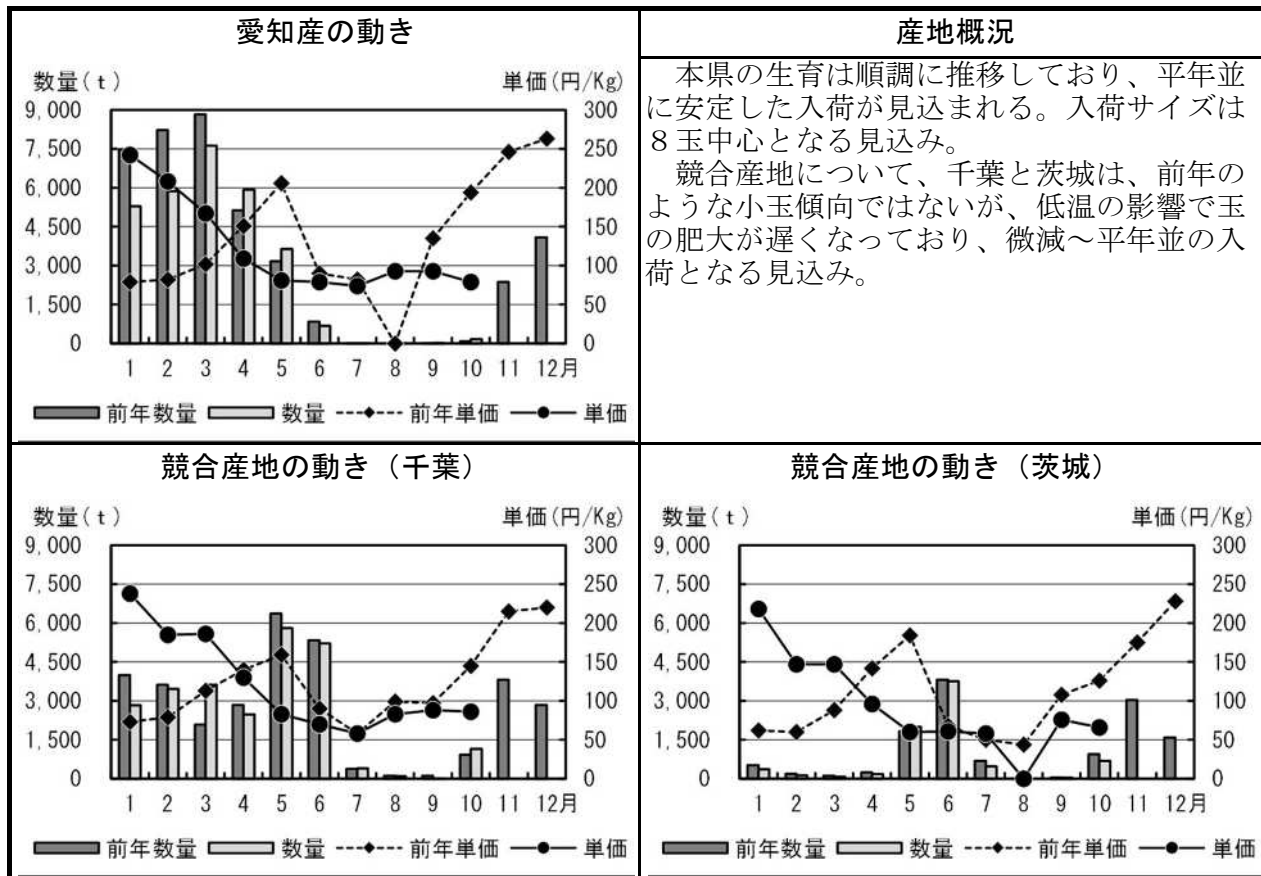
競合産地の動き（熊本）



2 入荷量・価格の動き

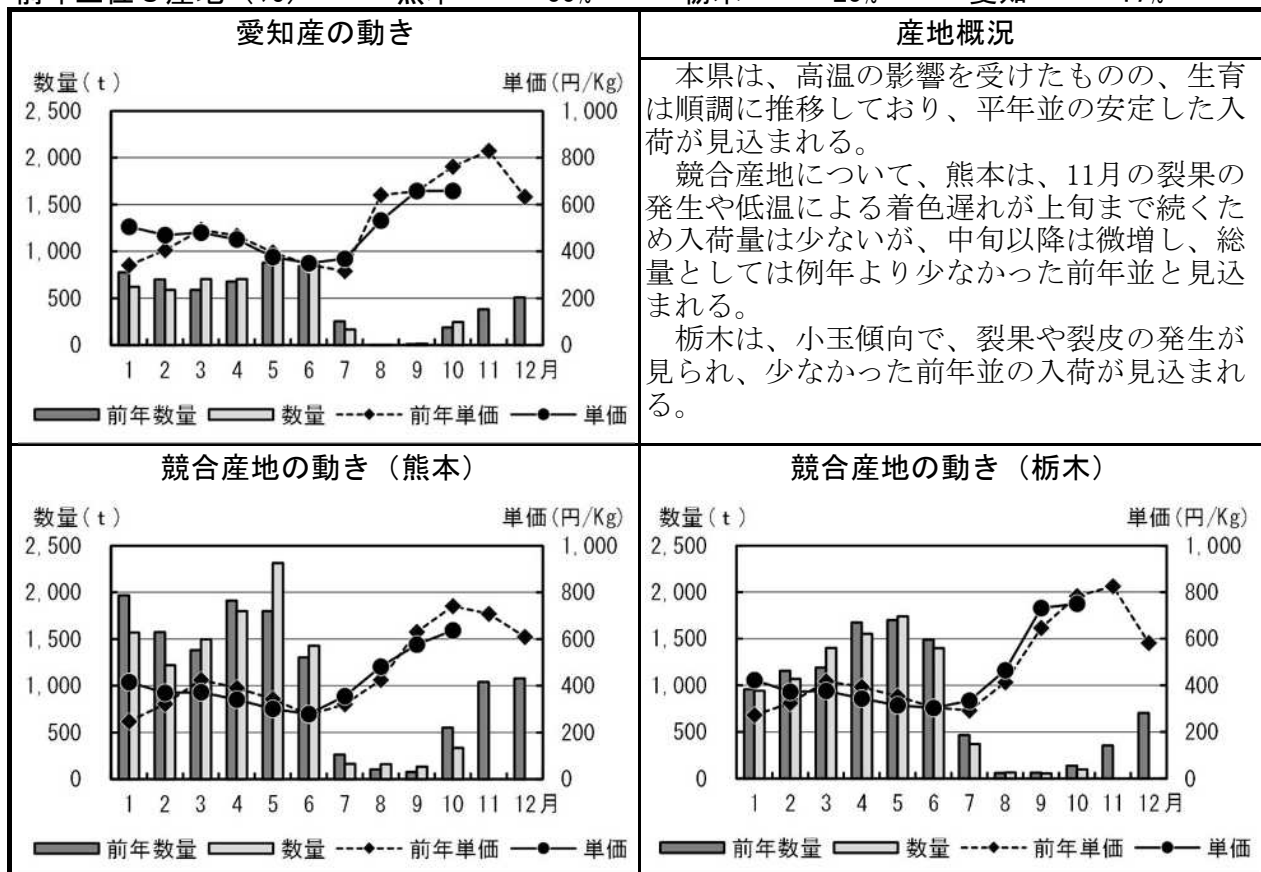
品目名 キャベツ

前年上位3産地(%) 愛知 41% 千葉 28% 茨城 16%



品目名 トマト

前年上位3産地(%) 熊本 35% 栃木 23% 愛知 17%



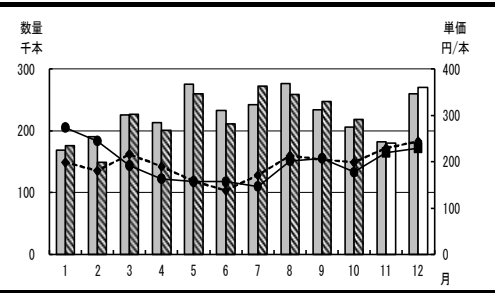
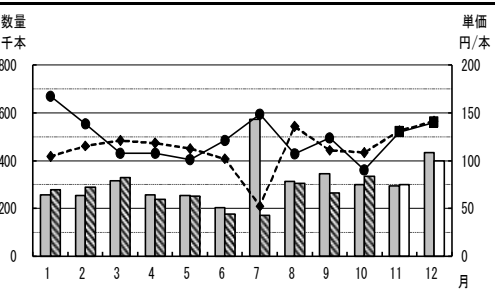
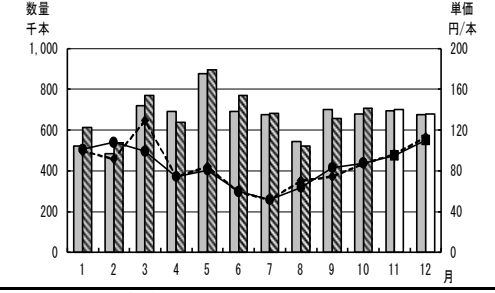
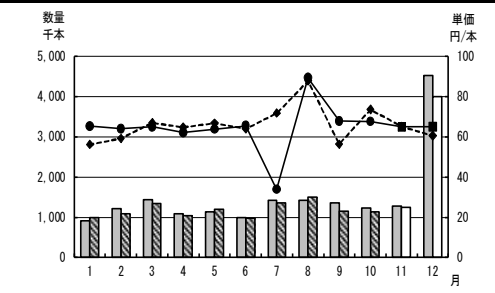
切花・鉢花の12月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 11月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
輪 ぎ く	実績	2020年	1, 6 4 8	5 5	<div>数量 千本</div> <div>本年数量</div> <div>単価 円/本</div> <div>■ 昨年数量 ■ 数量 ● 単価 ● 昨年単価</div>
		2021年	2, 1 9 8	6 0	
		2022年	2, 0 3 8	6 7	
		2023年	1, 8 3 6	7 1	
		2024年	1, 9 8 2	6 8	
	五か年平均	1, 9 4 0	6 4		
	2025年見通し	2, 0 0 0	6 5		
概要	愛知、沖縄、三重からの入荷。上旬は入荷量が少ない見込み。中旬以降は年末需要に向けて入荷量も増え、引き合いも強まる。				
小 ぎ く	実績	2020年	1, 7 2 6	3 1	<div>数量 千本</div> <div>単価 円/本</div> <div>■ 昨年数量 ■ 数量 ● 単価 ● 昨年単価</div>
		2021年	1, 9 5 8	3 2	
		2022年	1, 6 3 8	3 8	
		2023年	1, 9 5 8	3 2	
		2024年	1, 5 0 1	4 0	
	五か年平均	1, 7 5 6	3 4		
	2025年見通し	1, 6 0 0	4 0		
概要	沖縄中心に入荷。上旬は入荷量少なめで推移、中旬からは年末需要に向けて入荷量も伸びてくる。ピークは19日～24日販売となる見込み。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	9 7 6	3 5	<div>数量 千本</div> <div>単価 円/本</div> <div>■ 昨年数量 ■ 数量 ● 単価 ● 昨年単価</div>
		2021年	1, 3 1 7	4 8	
		2022年	1, 1 3 1	5 0	
		2023年	1, 1 7 5	5 0	
		2024年	1, 2 3 2	5 6	
	五か年平均	1, 1 6 6	4 9		
	2025年見通し	1, 2 0 0	5 5		
概要	愛知、輸入中心に入荷。国産は10月頭より秋の寒さにあたっているなので、昨年に比べて品質は良い見込み。大きな出荷の山もなく、月別の差があまりない出荷の見込み。輸入物は昨年並の出荷見込み。				
か す み そ う	実績	2020年	1 3 1	7 0	<div>数量 千本</div> <div>単価 円/本</div> <div>■ 昨年数量 ■ 数量 ● 単価 ● 昨年単価</div>
		2021年	1 9 1	9 2	
		2022年	1 6 8	9 4	
		2023年	1 6 6	1 1 0	
		2024年	1 2 8	1 3 8	
	五か年平均	1 5 7	1 0 0		
	2025年見通し	1 5 0	1 1 0		
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷。定植後の気温高により短径開花となっており、11月は少なめに推移したが、12月中旬頃には多くなっていく見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	分				
ゆり	実績	2020年	2 2 9	1 8 9	
		2021年	3 0 8	2 2 6	
		2022年	2 8 0	2 3 3	
		2023年	2 9 5	2 3 0	
		2024年	2 6 0	2 4 4	
	五か年平均		2 7 4	2 2 6	
	2025年見通し		2 7 0	2 3 0	
概要	高知、宮崎、埼玉、新潟からの入荷。オリエンタルは前進気味であったが、下旬から気温が下がり、生育が抑制されている。年末需要期より早めにピークを迎える可能性がある。				
洋らん	実績	2020年	3 0 1	1 0 6	
		2021年	4 2 2	1 4 4	
		2022年	3 5 9	1 4 9	
		2023年	3 9 5	1 5 0	
		2024年	4 3 3	1 4 1	
	五か年平均		3 8 2	1 3 9	
	2025年見通し		4 0 0	1 4 0	
概要	高知、鹿児島、静岡、愛知の国産、輸入品が入荷。カトレアは遅れ気味の出荷見込み。コチョウランは株の弱りから数量は伸び悩み、輸入は予対中心に入荷となる。デンファレは前半は昨年並、後半は注文等が多く、セリ売り分は減少する見込み。オンシジウムは船便のため、通関等の遅延がなければ、大幅な減少ない。シンビジウムは徳島産中心の入荷となるが、若干の遅れが見受けられる。				
ばら	実績	2020年	4 9 7	8 7	
		2021年	6 7 4	1 0 8	
		2022年	6 0 7	1 0 7	
		2023年	7 5 9	8 9	
		2024年	6 7 5	1 1 3	
	五か年平均		6 4 2	1 0 1	
	2025年見通し		6 8 0	1 1 0	
概要	愛知、岐阜、三重、輸入が入荷。昨年に比べて秋の寒気がしっかりあたったため、品質は良い見込み。品種により山谷はあるものの順調な入荷を予定している。				
枝もの	実績	2020年	3, 8 7 3	5 7	
		2021年	2, 7 8 9	8 5	
		2022年	3, 7 8 3	7 2	
		2023年	3, 9 2 4	7 0	
		2024年	4, 5 3 1	6 1	
	五か年平均		3, 7 8 0	6 8	
	2025年見通し		4, 0 0 0	6 5	
概要	茨城、兵庫、愛媛、和歌山、静岡及び長野から年末商材が入荷する。年末用の水仙は20日頃から40-45cm中心で出荷を予定しており、千葉県産は年末需要に間に合わない可能性がある。舞姫ボケは順調な出荷。あかねは年末から出荷となる予定だが、数量は少なめ。ケイオウ桜は山形産中心。雪柳等も年末向けに20日過ぎから出荷を予定している。				

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
ドラセナ類	実績	2020年	10,076	1,098	
		2021年	11,044	1,186	
		2022年	9,280	1,422	
		2023年	9,216	1,195	
		2024年	9,879	1,283	
	5ヵ年平均		9,899	1,233	
	2025年見通し		9,700	1,150	
概要		<p>入荷量と価格は前年を下回る見込み。輸入原木の高騰が、生産量の大幅な減少の主因と考えられる。8号以上の入荷が大きく減少すると思われるが、最近では種苗会社からの苗の販売が開始され、6号以下の生産・出荷量は増える可能性が見込まれる。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（70.3%）、2位鹿児島（12.3%）、3位福岡（5.0%）となっている。</p>			
シヤコバサボテン	実績	2020年	8,436	469	
		2021年	10,193	485	
		2022年	6,991	472	
		2023年	10,208	508	
		2024年	10,403	486	
	5ヵ年平均		9,246	485	
	2025年見通し		9,500	485	
概要		<p>入荷量は前年を下回る見込み。生産量減少に伴い、出荷は5号中心で、6号と4号も若干ある見込み。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（65.8%）、2位愛知（34.2%）となっている。</p>			
シクラメン	実績	2020年	427,062	448	
		2021年	422,530	459	
		2022年	489,355	392	
		2023年	464,176	403	
		2024年	417,108	443	
	5ヵ年平均		444,046	427	
	2025年見通し		400,000	450	
概要		<p>入荷量は6号が減少する見込み。5号は11月のスタートが遅れていたため、ずれ込んだ物が多く、前年に近い入荷の見込み。</p> <p>ガーデンシクラメンは前倒し気味の出荷となる見込みで、出荷量は減少する可能性がある。5号の関東物は3入@1,200、地元を含む4入@1,000～800クラスは引き合いが強い見込み。その下は、量販店の売れ行きで左右する可能性がある。</p> <p>前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（27.8%）、2位群馬（20.1%）、3位岐阜（10.7%）となっている。</p>			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分	実績等	入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
シンビジュウム	実績	2020年	83,647	2,267	
		2021年	71,306	2,420	
		2022年	78,898	2,394	
		2023年	60,015	2,481	
		2024年	59,210	2,459	
		5ヵ年平均	70,615	2,430	
	概要	2025年見通し	59,000	2,458	<p>入荷量は生産量の落ち込みにより、前年より減少する見込み。各生産者が開花を12月に合わせている為、生産量に対しての入荷は12月に高い比率となる。 前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（55.2%）、2位高知（9.3%）、3位徳島（8.4%）となっている。</p>
カラシコエ	実績	2020年	17,762	244	
		2021年	18,759	252	
		2022年	15,234	234	
		2023年	12,798	292	
		2024年	12,026	345	
		5ヵ年平均	15,316	268	
	概要	2025年見通し	12,000	342	<p>入荷量は前年並の見込み。高温障害は、前年ほどはなく例年並の入荷見込み。4号鉢を中心に中値安定で推移すると思われる。20日以降は年末年始売りの需要が見込まれ、4～6号の商品と各サイズの八重咲き種中心に品薄になる見込み。 前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉（33.5%）、2位岐阜（31.2%）、3位茨城（11.9%）となっている。</p>
パンジー	実績	2020年	413,893	40	
		2021年	394,867	50	
		2022年	382,297	42	
		2023年	345,688	63	
		2024年	321,112	85	
		5ヵ年平均	371,571	54	
	概要	2025年見通し	310,000	87	<p>入荷量は前年より多少減少する見込み。年々の作付け面積の減少や急激な冷え込みなどの影響により、開花待ちや11月への需要前倒しが見られ、全体的に出荷が前倒しになってきている。天候が安定していれば価格も平年並を見込む。 前年12月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（25.1%）、2位奈良（14.9%）、3位高知（13.1%）となっている。</p>



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.628
2025年12月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434